

# 社説

2017・3・26

2017年(平成29年)

3月26日

日曜日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

ニュースはウェブ東奥 検索

QRコード サイトはここ



陸奥湾周辺海域に回遊するカマイルカを自然の保全や環境教育、生態の研究、地域振興に生かそうと、むつ市が「イルカと人との共生」をテーマにしたプロジェクトに取り組んでいる。今月11日に、市や

## むつ市のイルカ事業

市教委、漁協、大学、水族館、商工観光団体などで構成する協議会を設立しシンポジウムを開催。2017年度以降、大学などの研究者との連携による生態調査、市民参加型のドルフィンウォッチング、漁

業の定置網に入り込み保護されたイルカを海で「放牧」しながらの研究や教育活動を行っていく。市などによると、カマイルカは毎年4月下旬から6月下旬にかけて陸奥湾に回遊する

## 共生や環境考える契機に

が、これまで地元ではあまり意識されていなかった。回遊ルートなどの生態も不明な点が多い。自然環境教育などに取り組むNPO法人シエルフォレスト川内(同市川内町)の五十嵐健志理事長が数年

前、カマイルカに着目し特色ある学習や地域活性化の構想を提案した。これを受け関係者が協議し、国の地方創生交付金を活用し事業化した。ウォッチングは、市の観光遊覧船を使い、脇野沢港発着

で行う予定。船でイルカを追いかけてはせず、イルカに負担を掛けない手法で実施する。参加者がイルカの頭数などを記録し、調査の一端を体験することも計画している。また、脇野沢や佐井村沖な

どで定置網にカマイルカが入ってしまった場合、保護して県営浅虫水族館(太田守信館長)で一定の期間、体管理を行った後、むつ市川内町沖に囲いを設けて飼育する。「ふれあいビーチ」として公開し、

生態の観察や回遊ルートを調べるために発信器を付ける方法などを検討する。将来的には、イルカと人が接した時の癒やし効果や療育的な可能性の研究にもつなげたい考えだ。カマイルカに関する研究

・教育目的のビーチ開設はあまり例のない試みという。

今後、各地の研究者や教育旅行で本県を訪れる児童生徒など多様な人々を巻き込み、イルカと人との共生の在り方や地球環境を考える機会の創出が期待される。子どもたちの愛郷心や科学の心を育む大きな要素になる。地形や地質を主な見どころとするジオパークと合わせ下北の自然の素晴らしさを知ってもらえば、交流人口の拡大につながる。身近にイルカがいる価値を再認識するこのプロジェクトは大きな可能性を秘めている。